

# 豊橋市議会の傍聴記

④

地方政治  
クリエイイト

伊藤 秀昭

◎将来人口  
豊田一雄氏(自民)は豊橋市の最近の人口動態から将来人口について議論した。

豊田氏はリーマンショック以降、人口動態は転出超過が続いていることから、人口動態がマイナスであることの影響について論じ、「国立社会保障・人口問題研究所」のデータは転入超過を見込んでおり、この矛盾と市が20年後の推計人口を同研究所の推計人口と同じ34万9千人としている妥当性について聞いた。

その上で「45年後には人口30万人を維持し、さらなる上積みを目指した目標人口を掲げていきたい」との答弁を引き出した。

## 新たに目撃してきた風景だから

員選定のありかたを問題にした。  
長坂氏は「応募する事業者は評価委員をみている。その事業者を見極める質の高い評価委員が求められている」とし、評価委員の中に業界を代表するよつな著名人がおられるのか

納得できた。  
◎危機管理  
「平成2年8月。イラクがクウェートに侵攻したことに始まる湾岸戦争は…」と質問を始めた星野隆輝氏(まちフォーラム)は、平成になつてからの国際情勢と日本を取り巻く各国

を取りやすくしておくかが重要であり、同計画で想定する災害は人の手による殺傷行為を目的とする災害であり、止める手立ては「ゼロ」ではないと警鐘を鳴らした。

◎若者の政治参加  
33年間の高校教員60分を使い、何を訴えたいのか注目したい。

産業部長は「外国人宿泊者数は昨年度14万人を越えている」とし、国の交付金を活用して、吉田城の整備と吉田城鉄橋(くろがねやぐら)前での手筒花火放揚や、豊橋駅東西自由連絡通路への多言語

◎イルカ捕獲問題  
宮澤知子氏(公明)は、「イルカ捕獲問題」に端を発したJAZA(日本動物園水族館協会)のWAZA(世界動物園水族館協会)に残留か脱退(離脱)かの投票で、市(豊橋総合動植物公園)の対応を質(た)だした。



総合動植物公園部長は「離脱した場合に海外との種の保存の取り組みに支障をきたすことが予想され、国際的な枠組みの中で緊密な連携が求められる」と答弁した。

今後、「人口ビジョン」が検討されているが、この議論の展開は大いに勉強になった。

◎著名な評価委員  
新人の長坂尚登氏(だいきき会)は、まちなか図書館にかかわる公募型プロポーザル方式での評価委

と追及した。  
「まちなか図書館は誰のためのものか」を考えば、「著名な評価委員」という切り口はどうなのか。むしろ、財務部長が答えた「発注側の明確な目的をもって、受託者を特定していく」との言葉が

この関係の大まかな流れから、策定から8年を経た「豊橋市国民保護計画」の課題について論じた。

星野氏は、豊橋市の危機管理について「自然災害への対応が優先されているが、訓練を含めいかに関係機関との連携

から市議に転じた川原元則氏(無所属)。初の市議選を若者と共に活動した経験から、若者の可能性に学び、若者の元気が豊橋を元気にすることができるとはならないかと持論を展開した。

川原氏は選挙権年齢が18歳以上に引き下げられる「新たに目撃してきた風景だから」といふ、今、動くことが大事」と「期日前投票所の増設」を提案し、質問時間を46分残して初質問を終えた。

宮澤氏の動物に対する愛情が溢れた質問だった。